

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず＜企画シート作成上の注意＞をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
カンサイダイガク	ケイザイガクブ	ヨシナガゼミ
関西大学	経済学部	良永ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
エーチーム	ミマツ アスカ	6 人
A チーム	三松 明日香	

研究テーマ（発表タイトル）

プラごみ大陸 ―プラスチック削減の重要性―

1. 研究概要（目的・狙いなど）

50 年後には海の魚の量を上回ると言われている海洋プラスチック。近年、世界的に問題視されており、今年、大阪で開催された G20 サミットでも議題とされたほどである。また、海に漂流したプラスチックは、紫外線や波といった影響を受けマイクロプラスチックとなり、それをエサと間違えて食べた海洋生物から、食物連鎖によって我々人間の体にも甚大な影響を及ぼすことが懸念されている。この海洋プラスチック問題を解決するために、どのような取り組みを行えば我々が自らプラスチック削減を選択するようになるのかについて言及する。また、環境負荷を低減させ、資源循環による持続可能な社会を実現させるサービスを提供する環境ビジネスが行えないか調査する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

持続可能な開発目標である SDGs の中でも目標 14 に「海の豊かさを守ろう」が挙げられており、企業や民間において近年少しずつ海洋汚染問題について意識され取り組まれ始めている。しかし、実際年間約 800 万 t のプラスチックが海へと流れ出ているにも関わらず、具体的な原因や対策について理解している人は少なく、その深刻さはまだあまり浸透していない。自分たちの生活を脅かす身近な問題として周知し、一人一人が必要なプラスチックと削減可能なプラスチックを今一度見直していくことが必要である。現在行われている使い捨てプラスチック削減に対する対策としては、レジ袋の廃止やビニールから紙袋への変更、マイボトル持参運動の促進や分別の強化、ポイ捨てを厳しく規制することなどが行われている。このような対策が行われてはいるものの、限定的であり、認知されていないことで全国的には普及していない。また、現在のプラスチックゴミの処理方法は、埋め立てと熱回収が大半を占め、リサイクルが占める割合はたったの 28% である。このままでは CO2 の大量排出や有害物質の放出が原因で将来的に環境悪化をより進行させる。そのため、現在の処理方法の内訳を変えていくこと、さらに、現存の対策をはじめとするプラスチックの削減を全国規模で浸透させることが必要であり最終目標である。

3. 研究テーマの課題

- ①環境を守るためだけの取り組みではなく、消費者や企業にとっても取り組むインセンティブが生まれる制度を作れるかどうか。
- ②国民一人一人が環境問題に関心を持ち、責任を持った行動をとるためには、どのような制度を用いて意識の変化を促すべきか。
- ③現段階では自治体や政府に働きかけて制度を施行することが難しいため、どのようにすれば条例や法律の制定に至るのか。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

【解決策】大学単位で循環型社会を実現する DEPO univ.

大学という私たちの身近な単位で制度を実施し成功することが、循環型社会形成への第一歩に繋がると考えた。

モノを買うときに預託金を上乗せして支払い、モノを返した際に預託金が返金される、という仕組みであるデポジット制度を、現在取り組みが未徹底である使い捨てプラスチック(ペットボトル、食品トレイ、ビニール傘)に適用する。これにより購買意欲を抑制すること、また使用済みプラスチックの分別回収率を上昇させることが期待できる。さらに預託金額と返金額に差額を生むことで、新たな環境設備への投資資金調達を目指す。使い捨てプラスチックの使用を抑制することで、消費量だけでなくそのものの生産も減らすことができ、また、出てしまった使い捨てプラスチックに対してはリサイクルしやすい状態で回収し有効活用ができるようにする。これらの生産・消費での削減、リサイクルの促進から理想の循環型社会を大学内で実現させる。

【具体例】

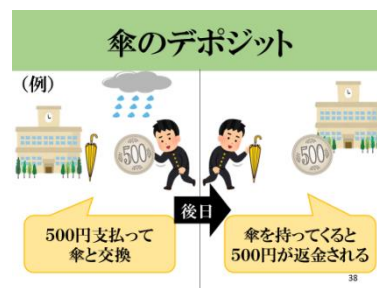
・ペットボトル



・食品トレイ



・傘



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

吹田環境教育フェスタ ボランティアとして参加(2019/2/2)

くるくるアースフェスタ ボランティアとして参加(2019/2/17)

吹田市使い捨てプラスチック削減動画コンテスト 敢闘賞受賞(2019/5/26)

パナソニックスタジアムブース出展 ボランティアとして参加(2019/8/31)

くるくるプラザ 吹田市資源リサイクルセンター訪問(2019/9/21)

神崎川河畔プラごみゼロアクション ボランティアとして参加(2019/10/5)

トークイベント「関大生が考える SDGs – 持続可能な社会のカタチ –」 出場(2019/10/21)

すいた環境学生ネットワーク 学生スタッフ

傘のデポジット利用に関するアンケート 実施

6. 結果や今後の取り組み

今回の提案を考えるにあたって、関西大学内で使い捨てプラスチック削減に対する対策はあまり取られていないことがわかった。また、学生の環境問題への認知度の低さを改めて思い知った。

これからの目標は、まず関西大学にこの制度を提案し、成功事例を作りあげることである。

さらにそこから実施で得られた研究成果を、様々なイベントなどに参加し企業や自治体に広めていくことで、全国規模での実施に向けて取り組んでいく。

また、より多くの人に環境問題や海洋プラスチックについて考えるきっかけを与えたいと考えている。

7. 参考文献

- ・『プラスチック・フリー生活』シャタル・プラモン・著 服部雄一郎・訳 NHK 出版 2019 年
- ・『海洋プラごみ問題解決への道』重化学工業通信社 石油化学新報編集部・編 重化学工業通信社 2019 年
- ・『クジラのおなかからプラスチック』保坂直紀・著 旬報社 2018 年
- ・『地球をめぐる不都合な物質』日本環境化学会・編 講談社ブルーバックス 2019 年
- ・『プラスチック汚染とは何か』枝廣淳子・著 岩波ブックレット 2019 年
- ・『プラスチックの海 北太平洋巨大ごみベルトは警告する』チャールズ・モア・著 カッサンドラ・フィリップス・著 海輪 由香子・翻訳 NHK 2012 年出版
- ・『「脱使い捨て」でいこう!』瀬口 亮子・著 彩流社 2019 年出版
- ・出典：NOAA/Woods Hole Sea Grant (2017 年)
- ・出典：プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況 (2017 年)
- ・ぐるくるプラザ HP (最終閲覧日：2019/9/21) <http://www.kurukuru-plaza.jp/>
- ・環境省 容器包装廃棄物の使用・排出実態調査 (最終閲覧日：2019/10/25)
https://www.env.go.jp/recycle/yoki/c_2_research/research_H30.html
- ・ルポ にっぽんのごみ岩波新書(新赤版) 杉本裕明・著 2015/7/22
- ・プラスチック循環利用協会 (最終閲覧日：2019/9/30) <https://www.pwmi.or.jp/>
- ・一般社団法人 産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター (最終閲覧日：2019/10/2)
<http://www.cjc.or.jp/school/a/a-4.html>
- ・環境省 容器包装廃棄物の使用・排出の実態調査(平成 30 年度) (最終閲覧日：2019/10/2)
https://www.env.go.jp/recycle/yoki/c_2_research/research_H30.html
- ・WWF ジャパン 海洋プラスチック問題について (最終閲覧日：2019/11/8)
<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>
- ・写真 AC (最終閲覧日：2019/11/8) <https://www.photo-ac.com/>
- ・フリー素材ドットコム (最終閲覧日：2019/11/9) <https://free-materials.com/>
- ・ぱくたそ (最終閲覧日：2019/11/9) <https://www.pakutaso.com/>
- ・いらすとや (最終閲覧日：2019/11/9) <https://www.irasutoya.com/>

● パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

なし

●発表時に使用する成果物（例．商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

なし

【企画シート作成上の注意】※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑